

「英語で学ぶ全学共通科目」の冊子について

【ご質問】（投稿日：2018年10月10日）

英語を使用言語とする科目のシラバスをまとめた「英語で学ぶ全学共通科目」と題された冊子の2018年度後期版が国際高等教育院棟の窓口に相当数置かれているところを見かけました。このような冊子は履修する科目を考える時期に意味を持つものであり、講義が2週目に入った今頃以降になると、需要が減ってくるのではないかと考えられます。また、印刷の質等を見るに、それなりの印刷製本費用がかかっていると推測され、今の時期になっても多く残っていることは非常にもったいないと感じます。そもそも、ページの大多数をKULASISでも手に入るような情報が占めており、印刷・配布する意義についても疑問があります。

そこで、以下のように質問します。

1. 「英語で学ぶ全学共通科目」の冊子はどのような目的で印刷・配布されているのでしょうか。
2. 「英語で学ぶ全学共通科目」の冊子の2018年度後期版はいつ頃から、またどのようにして学生に配布されたのでしょうか。
3. 「英語で学ぶ全学共通科目」の冊子の2018年度後期版はどれぐらいの費用をかけて何部印刷されたのでしょうか。
4. これまでに印刷されてきた「英語で学ぶ全学共通科目」の冊子はどれぐらい学生に配布できたと認識されていますでしょうか。
5. 2の配布時期・方法や3の印刷部数は適切なものだったとお考えでしょうか。

以上、ご回答よろしく願いいたします。

【回答】（回答日：2018年11月22日）

（国際高等教育院事務部）

下記のとおりご質問に回答いたします。

「英語で学ぶ全学共通科目（冊子）」は、学生みなさんに、英語による全学共通科目の積極的な受講を促すことや、受講登録のためのシラバスとして使用してもらうためだけでなく、本学に広く海外からの留学生を受け入れるための広報活動に使用することも目的として作成しています。そのために適切な部数の印刷を最小限の経費で行い、後期版については受講登録開始前（7月中旬頃）から窓口で配布しています。

また、昨年度までは1・2回生全員にガイダンスで、3回生以上については希望者に窓

口で冊子を配布していましたが、今年度からは新たにホームページ上に冊子と同一の PDF 版を公開したことにより、冊子体については必要とする学生に配布できており、配布時期等についても適切であったと考えています。

なお、本「英語で学ぶ全学共通科目（冊子）」は、今年度から PDF 版を公開したことにより、来年度からは印刷・配布を行わない方向で進めております。